

横須賀 市民記者がつくる 日日新聞

- 2 50回目はしょうぶ園
- 3 手作りの看板と守り神
- 4 お龍さんが住んでた

発行所：神奈川新聞横須賀支社 〒238-0004 横須賀市小川町21-9 TEL.046(822)2020 FAX.046(823)3845 ✉yokosuka@kanagawa-np.co.jp 第41号
 神奈川新聞のご購読申し込みはフリーダイヤル ☎0120-446-709。1週間のお試し読みも受け付けています。購読料1ヵ月3,189円
 平成27(2015)年8月2日発行

思いっきり泥まみれ

長坂で田植え体験会

平安時代の田楽もまねて

よ こすか田んぼ研究会(あさば・りえ代)が主催する「田植え体験会」が6月7、14の両日、長坂3丁目の田んぼ(広さ約10アール)で、延べ150人余が参加して開かれた。

14日には、NPO法人「外遊び子育てサポート鎌倉太郎(鎌倉市稲村ヶ崎)から、太郎こと代表の山田肇さん

が息子と個人的に参加。全身泥まみれの姿で、あかかも怪物のように胸を開いたポーズで立ちまわると、小学生らが泥を投げては逃げ回っていた。小・中・高校生は、相撲や騎馬戦、ビーチフラッグならぬ「田んぼフラッグ」などを楽しんだ。

田植えでは、平安時代から伝わる「田楽」をイメージし、バケツやなべを同会員がたたきながら、「植えまうす」「下がります」「えまうす」「下がります」などの掛け声に合わせて、ロープに沿って、苗を3本ずつつまんで植えていった。不登校や引きこもりなど

の生徒の学習を支援する湘南国際学院の吉田勝英学院長は、7日に横須賀校(大滝町)に通う高校生2人と参加。「とても楽しかった。来年は他の生徒たちにも体験させたい」と話していた。稲刈りは9月下旬の予定。時期が来たら「よすか田んぼ研究会」のブログhttp://sukatandoorblog.jp/に参加者を募集する。(鈴村 香織)

7日は稲や種の観察の後、14日は田植えの後、田んぼ研究会メンバーやその友人の中・高校生が泥んこダンプのパフォーマンスを披露。そこにポーンスカウトや自主保育グループ、個人申し込みなどの参加者も加わり、子どもも大人も泥まみれになって遊んだ。



全身泥まみれになって、大人も子どもも楽しそう(上、6月14日)。一列になって苗を植えていく参加者(6月7日、ともに長坂3丁目)

市 内最古の庚申塔が公郷町3丁目、公郷神社の向かいの民家の庭先に祭つてある。寛永12(1635)年の文字が刻ま

れており、480年前の造塔であるのが分かる。市内に庚申塔は約千基あるといわ

れているが、逗子、葉山、三浦の2市1町を含めた三浦半島でも最古という説もある。庚申塔は中国から伝来した道教(中国漢民族の伝統

の板碑型で、文字が刻んである。右隣の塔には三

風化して読みにくい、先人が風化する以前に記録しておいてくれたので大変貴重な庚申塔である。(藤野 瑠美子)



市内最古の庚申塔(左)と三猿が刻まれた庚申塔

市内最古の庚申塔

公郷町に「市民文化資産」

宗教)に由来する庚申信仰に基づいて建てられた。道の辻や寺社や墓地の入り口など日本全国どこにでも祭られている。

猿が彫られていて、延宝5(1677)年造塔とある。ここには、最古の庚申塔を含め8基が並び、この庚申塔群は市指定の市民文化資産になっている。文字は



8基の庚申塔群。いずれも公郷町3丁目

ちよっと街角

花盛り ウチワサボテン

JR横須賀駅のホームから海上自衛隊横須賀地方総監部方面に目を向けると、駅構内の建物の周りに群生するウチワサボテンの花が目を見張った。

その名のとおり、団扇のような形をしたサボテン。初夏から夏にかけて、とげのある茎節の縁に花芽をつけ、鮮やかな黄色の花を咲かせる。「去年はこんなに咲いた覚えはありません」と同駅



ウチワサボテンの花。JR横須賀駅構内。6月15日

の小林敏・助役。いつ、どのような経緯で植えられたかは不明。「雑草と一緒に刈っても、また成長して。丈夫なんです」

群生している場所は、一般の立ち入りが禁止。眺めるのはホームから。(山田 小百合)